

〔第7章〕施設・設備等

【大学】

目標：「学生のため」の大学として一層の施設・設備の整備を目指す。耐震工事をはじめ、校舎の安全の建設を進め、総合的なキャンパス整備計画を推進する。

（施設・設備等の整備）

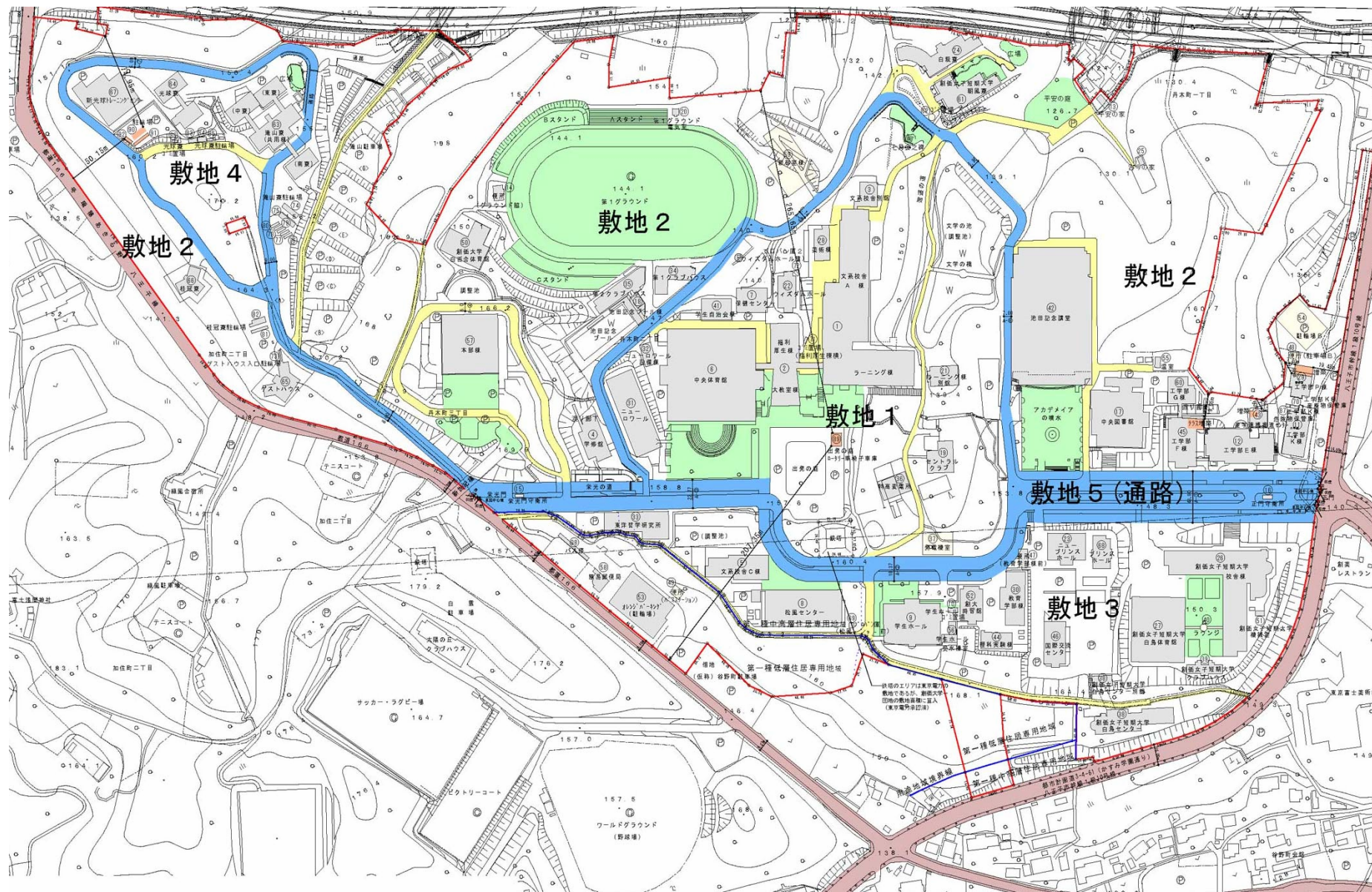
A群：大学・学部等の教育研究目的を実現する為の施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

本学は、JR八王子駅より北へ約4km。緑豊かな多摩丘陵の一角に約65万7千㎡の校地を擁するキャンパスである。創価女子短期大学も同敷地内にあり、両方併せると約81万㎡の校地を擁することになる。

1971年、3学部4学科体制で出発し、以来35年、法科大学院を含む大学院5研究科、6学部13学科、さらには通信教育部などを有する総合大学へと発展した。本学の主な施設・建物は、全部で43棟ある（＝図1・キャンパスマップ参照）。また各講義棟など施設の面積等の概要は表1のようになっている。（表1）

No	棟名	構造	地上	地下	建築面積	延床面積
1	文系校舎A棟	SRC	8	1	2,389.20	21,923.20
2	ラーニング棟	SRC	2	3	1,802.46	6,440.70
3	大教室棟	RC	0	2	677.75	1,407.85
4	福利厚生棟	RC	4	1	663.26	2,089.79
5	文系校舎別館	S	2	2	277.29	1,068.69
6	学修館	S	4	0	563.03	2,052.73
7	文系校舎C棟	RC	5	0	848.54	3,851.44
8	中央体育館	S	1	2	4,624.00	7,427.00
9	保健センター	RC	3	1	369.91	1,101.01
10	松風センター	RC	4	1	1,644.34	4,768.01
11	学生ホール	RC	4	0	1,367.34	3,692.71
12	ゴミ置場（学生ホール）	RC	1	0	28.00	28.00
13	工学部K棟	RC	4	0	494.98	1,801.20
14	工学部E棟	SRC	7	1	1,218.47	8,203.69
15	平安の家	軽鉄	1	0	39.74	39.74
16	WC（第1グラ脇）	軽鉄	1	0	76.80	76.80
17	栄光門守衛所	RC	1	0	17.97	17.97
18	正門守衛所	RC	1	0	20.44	20.44
19	中央図書館	RC	5	1	2,074.53	7,048.70
20	池田記念プール	RC	1	0	275.58	361.84
21	セントラルクラブ	S	2	0	356.25	477.00
22	ラーニング棟別館	RC	4	1	275.19	902.55
23	ウィズダムホール	S	4	0	331.20	1,324.80
24	ニュープリンス	RC	2	0	487.56	795.52
25	白萩寮	RC	3	0	746.89	2,039.68
26	古今の家	W	1	0	22.68	22.68
27	美術棟	S	3	0	301.38	869.31
28	工学部P棟	RC	3	0	257.29	730.40
29	教育学部棟	RC	6	0	679.33	3,604.23
30	ニューロワール	RC	3	0	1,583.82	2,840.06
31	ニューロワール設備棟	S	1	0	162.00	162.00
32	東洋哲学研究所	RC	2	0	756.92	1,267.04

33	第1クラブハウス	RC	3	0	411.63	1,175.39
34	第2クラブハウス	RC	3	0	516.39	1,519.29
35	特高変電所	RC	2	1	798.86	1,066.05
36	第2クラブハウス	RC	3	0	516.39	1,519.29
37	学生自治会棟	RC	3	0	377.65	983.85
38	池田記念講堂	RC	6	1	9,550.86	23,824.15
39	産学連携推進センター	RC/S	1	1	175.10	276.90
40	理科実験棟	軽鉄	2	0	284.76	460.72
41	工学部F棟	SRC	6	1	776.44	4,427.97
42	国際交流センター	RC	4	0	565.23	2,132.00
43	WC（教育学部前）	RC	1	0	110.00	100.00
44	白百合体育館	S	1	0	740.90	712.92
45	時習館	RC	3	0	429.27	1,157.14
46	オレンジパーキング	S	2	0	1,279.02	1,279.02
47	温室	軽鉄	1	0	31.74	31.74
48	受水槽（学生ホール）	RC	1	0	55.00	55.00
49	本部棟	SRC	13	3	4,013.45	23,332.60
50	簡易郵便局	S	1	0	127.65	127.65
51	工学部G棟	S	2	0	403.65	780.73
52	滝山寮	RC	5	2	1,641.26	6,276.47
53	光球寮	RC	5	2	526.00	2,299.02
54	ゲストハウス	RC	6	2	409.94	2,793.06
55	桂冠寮	RC	6	1	264.47	1,362.20
56	新光球トレーニングセンター	S	1	0	1,136.20	1,126.02
57	プリンスホール	S	1	0	312.02	306.50
58	プロパン庫（松風C）	RC	1	0	13.15	13.15
59	廃棄物保管庫（K棟）	CB	1	0	11.40	11.40
60	ゴミ置場（福利厚生棟）	S	1	0	8.01	8.01
61	プロパン庫（ウイスタムホール）	CB	1	0	8.28	8.28
62	駐輪場（ゲストハウス）	S	1	0	20.37	20.37
63	駐輪場（滝山寮）	S	1	0	173.88	173.88
64	駐輪場（桂冠寮）	S	1	0	85.05	85.05
65	駐輪場（光球寮）	S	1	0	70.20	70.20
66	ゴミ置場（光球寮）	S	1	0	7.65	7.65
67	危険物保管庫（K棟）	CB	1	0	6.15	6.15
68	バス亭	S	1	0	71.55	71.55
69	太陽の丘クラブハウス	RC	4	1	592.90	2,371.75
70	友光寮	RC	3	0	761.85	2,121.14
71	宝友寮	RC	6	1	2,265.59	5,436.83
72	パイオニアホール	RC	5	0	300.60	1,272.32
73	白馬寮	S	2	0	447.55	757.44
74	白萩寮	RC	3	0	816.77	2,015.41
75	緑風合宿所	S	2	0	396.15	655.58
76	秋桜寮	RC	3	1	1,007.02	2,373.73
77	朝霧寮	RC	3	1	436.90	1,137.48
78	香峯寮	RC	4	1	308.81	1,046.36
79	桜香寮	RC	4	1	780.10	2,642.02
80	サンフラワーホール	RC	3	0	454.71	911.51
81	創大女子時習館	S	1	0	124.22	124.22
82	菅平セミナーハウス	S	2	0	919.20	1,099.52
83	箱根セミナーハウス	RC	4	0	689.41	1,326.21
					61,665.49	193,349.67



文系5学部は、各学部固有の校舎・教室で授業を行っているものではなく、多くの施設・設備を共用している状況である。主要な施設・設備として次のようなものがある。

文系校舎A棟では主に経済学部、経営学部、その他共通科目等の講義のために使用する。大教室には、液晶ビデオプロジェクター等マルチメディア機器を設備し、様々な教育方法を実践できるよう配備されている。語学教育、基礎ゼミなど少人数教育を実施するために、大・小のプロジェクター等マルチメディアを備えたゼミ室も用意されている。各階に無線LAN施設があり学内LANへの接続が可能となっている。

ラーニング棟では、パソコン教室（9教室・240名）や学生の質問に応えるコンサルテーションルームがある。その他、語学教育のためのAV教室（1教室・56名）、CALL教室（2教室・60名/56名）、AVライブラリー、教材作成のためのTVスタジオ・編集室等がある。また教育実習用ピアノレッスン室や音楽室等があり、教育学部学生の実習教室となっている。

本部棟は主に法学部が利用しているが、18階建てで、その1階から4階に教室（講義室、演習室、大教室）が配置されている。模擬法廷教室も設置されており、法学部が模擬裁判などに活用している。4階には総務部、通信教育部事務室などの事務室がある。

研究室（24㎡から26㎡）は、11階と12階に配置され、書架10連、AV端子、LAN端子などが装備されている。1階と3階にパソコン教室（2教室、67名収容）があり、授業で使用するほか、授業時間以外は学生が自由に使用できる。3階の全教室は無線LAN対応となっており、スクリーン、テレビ、ビデオテープレコーダー、CDプレーヤーが設置され、大・中教室にはPC用の情報コンセントがあり、書画カメラ、ワイヤレス・ワイヤードマイク、ミキサースピーカー等音声送出装置が配備されている。利用者はノート型PC等を持ちこみ、プロジェクターでスクリーンにパソコン映像等を映写できる。編集室も備えたTVスタジオもある。また13階には食堂が設置されている。14階には国際会議場を有し、海外からの識者の講演会、シンポジウム等に活用している。

文系校舎B棟（教育学部棟）は、主に教育学部の講義を行い、マルチメディアを推進した大教室や大・小ゼミ室もある。学生が自由に使用できるパソコン教室（2教室・50名）も設置している。

文系校舎C棟は、主に文学部の外国語学科や日本語学科、人文学科の講義を行い、CALL教室の他、ゼミ室を多数設置している。

全学共用の大教室棟には、それぞれ500名、300名を収容できるS201教室、S101教室がある。自動追尾カメラによる講義の収録のため自動収録システムを導入し、eラーニングにも対応している。

工学部学生のために、工学部E棟、F棟、G棟、K棟、動物舎など、教育用の教室、実験・実習室、演習室が備えられている。設備面においては、走査型電子顕微鏡、フローサイトメトリーなどの各種設備が整えられている。

本学では、マルチメディアを駆使した授業や、学習方法の改善に積極的に対応するため、複数年度にわたる事業として「教室のマルチメディア化」を推進している。また全学生対象に行っている授業アンケート結果からも、教室等に対する学生の満足度は年々上昇している。

これまでの教室改修整備により、以下の教室がマルチメディア化している。

【マルチメディア化の主な教室改修工事一覧】

◎文系校舎A棟 A129教室、A130教室、A321教室、A324教室、A325教室、

	A 327 教室、A 328 教室、A 329 教室、A 330 教室、A 405 教室 A 406 教室、A 424 教室、A 427 教室
◎教育学部棟	B 102 教室、B 205 教室、B 302 教室、B 403 教室
◎文系校舎C棟	L L 教室
◎工学部E棟	E 201 教室、E 207 教室
◎ラーニング棟	LB102 教室、LB103 教室、LB107 教室、LB110 教室、LB111 教室、LB202 教室、AV 教室、AV-CALL 教室
◎本部棟	M201 教室、M401 教室、M402 教室
◎大教室棟	S 201 教室、S 101 教室

カリキュラム改革により、共通科目・語学科目など、少人数教育への要望が増え、小規模教室の確保が今後一層必要とされている。特に、文系校舎A棟の教室稼働率が高くなっており、急務の課題と考えている。

一方学生のアンケート等では授業時間外での自学自習環境の充実を求める声が多く寄せられている。これまで課外の教室開放や専用自習室の確保に努めてきたが、一層の効率的な教室運営が必要である。

また、安心安全対策の上から2005年に、昭和56年（1981）年6月1日の新耐震設計基準施工以前に建築確認された施設の耐震診断を行った。その結果、2006年から3ヵ年計画で、文系校舎A棟、ラーニング棟、大教室棟の耐震補強工事を実施している。

アスベストを含む建材を使用している建物については、すべて吹き止め処理がなされているが、毎年飛散状況を調査・確認しており、問題は生じていない。2006年より2ヵ年計画で囲い込み工事を行っている。

今後3～5年計画で、次の5点について具体的に取り組む予定である。①マルチメディア対応教室の増設、②効率的な教室運営管理、③少人数教育対応教室の増設、④遠隔教育環境の整備、⑤自習室の拡充。

また新総合グラウンド・新総合体育館の建設が2006年10月から開始し、将来的には新総合教育棟の建設計画がある。これらを鑑み総合的なキャンパス整備計画を推進しているところである。

B群：教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

本学では1995年9月にキャンパス内のすべての建物を光ファイバー網で結び、学内統合ネットワークを完成させた。2003年には主要な各棟を結んでいた従来のFDDIをGigabit Ethernetに置き換え、現在はこれをバックボーンとして、研究室、コンピュータ教室をはじめ、ほとんどのマルチメディア教室にもネットワークが配備されている。さらに2003年から2005年にかけて、教室、自習室、ラウンジなど学生が多く集まる92箇所は無線LANアクセスポイントを設置し、ネットワークを活用した学習環境を整備した。

情報処理機器が情報処理教育以外の多様な分野で教材・教具として役割を増していくことに伴い、学内のすべての教育用情報機器を統括する「総合情報センター」を2002年4月に設置した。これにより情報に関する一歩を、全学規模で多用な分野を包括して見渡すことができるようになり、改善が進んだ。システムの導入も一斉に行うためコストパフォーマンスも有利になり、ハードウェアやソフトウェアも同一のものとなるためランニングコスト削減

にも効果があった。

対外接続は商用プロバイダである日本テレコム（ODN）に 100Mbps で接続されている。この対外接続とのインターフェース部分に、学内の教育用システム保全のためチェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ株式会社の FireWall-1 を 1997 年 11 月に導入した。また、2003 年 4 月にはマカフィー株式会社の WebSheild を導入しウィルスが外部から侵入しないように、また内部から発信されないように対策を施した。

総合情報センターでは 2003 年 4 月にコンピュータ教室の PC を増強し、授業が行われる各棟で学生が自由に使用できるような環境を整えた。学生が使用できるコンピュータとして、文系 A 棟、教育学部棟（B 棟）、文系 C 棟、本部棟、工学部棟、中央図書館等の 50 教室・施設に 1,409 台の PC を設置した。また、1999 年 4 月から使用しているコンピュータ 123 台を再利用したことにより、コストを削減しながらキャンパス内のあらゆる場所で学生がコンピュータを使用できるように工夫した。

コンピュータ教室には操作等に関わる相談の窓口を設置し、学生アルバイトと派遣システムエンジニアが常駐し対応している。最近は入学当初から問題なくコンピュータの操作ができる学生が確実に増えているが、デジタルデバイドは依然として存在するため、むしろコンピュータが不得手な学生も積極的にコンピュータを利用できるように環境を整えてきた。

コンピュータ教室には画像処理ソフトウェア、スキャナ、カラーレーザープリンタなども導入した。これらは学生の表現力を引き出すツールとして役割を発揮し、論文、レポート、プレゼンテーション、ホームページの作成に役立っている。また、コンピュータの OS として Windows XP のほかに代表的な Linux ディストリビューションである Fedora Core を採用し、多角的なコンピュータの学習環境を整えている。

更に、学生が在宅でも本学のネットワークリソースにアクセスできるよう、2003 年 7 月に VPN サーバを設置した。これにより、学生はどこからでもサーバに保存されたファイルを取り出すことや、レポートを教員に提出することができるようになった。さらに本学で契約している外部デジタルアーカイブ・データベースにも自由にアクセスすることが可能となった。

大学のネットワークを使用する上でのモラルについて、本学では 1995 年に PC が導入された当初から、モラル向上のため学生は情報ガイダンスを受講しないとコンピュータを使用することはできない。2000 年からはサインアップシステムを独自開発し、ウェブブラウザでセルフラーニングを受けテストに合格しないとコンピュータを使用できない仕組みになっている。この効果として、本学におけるネットワーク犯罪などの重大な問題は現時点まで起きていない。

学生の学習活動を支援し、円滑な学生生活を送れるよう 2005 年 4 月に学生専用ポータルサイトシステムを導入した。これにより個人の時間割情報、休講・補講情報、事務局からの連絡等を確認できる。このほか、ウェブメールシステム、レポートシステム、講義支援システム等が利用できるなど、学習支援を中心に学生サービスの充実を図っている。

情報インフラストラクチャーは学生の学習活動のみの環境としてだけではなく、もはや広い意味で学生生活全般に関わる環境として捉えていかなくてはならない。大事なことは情報処理機器の配備を目的とするのではなく、情報処理機器はあくまで学生の学習のツールであるとの認識を明確にし、その上で存分に活用できるような環境や支援体制を整えることである。そのためさらにサービスの充実、学生生活支援という観点に重きを置いたシステムを心

がける必要がある。

（キャンパス・アメニティ等）

B群：キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

本学では「学生第一の大学」を掲げ、キャンパスの全てのアメニティ形成・支援について、学生の意見・要望を十分に取り入れる体制を整えている。具体的には理事・教職員・学生で構成する全学協議会を毎月開催し、キャンパス・アメニティ創出に学生の意見・要望を聞く機会を設けている。全学協議会のもとに「学生生活向上委員会」、「構内施設委員会」、「バリアフリー委員会」などがある。これらの委員会を通じ、食堂やラウンジの充実、トイレのウォシュレット化、障害を持つ学生のためのバリアフリー施設（肢体不自由者、聴覚障害者用）の設置など多くの施設改修を実現してきた。また、学生自治会や学友会施設に学内 LAN 工事を実施し、キャンパス全体に IT を網羅した教育環境の整備も行ってきた。更に、グランドや体育設備等の改善にも学生の要望を受け入れ細かな改善がなされている。

今後も「学生生活アンケート」を参考にするなど、よく目配りをして学生のためのより良い教育環境を創りあげていきたい。

B群：「学生のための生活の場」の整備状況

キャンパスの中央部に位置する「学生ホール」には、株式会社創学サービスが経営する福利厚生施設がある。ここでは、教科書・書籍・日用雑貨・食料品・電化製品・自転車・バイク等、学生生活を過ごす上で必要な品物が揃う。1階には郵便局・銀行のATMコーナー、旅行センターがあり、更にアパートの紹介、自動車教習所の斡旋など快適な学生生活を支援する体制が整っている。2～3階には、ラウンジ、自習室があり多くの学生が授業の合間に利用している。また可動式多目的ホール（250名収容）も設置されており、学生の展示や発表会などで利用頻度が高い。

構内には「ニューロワール」（1F 520席・2F 462席）、「滝山亭」（196席）、「ロンドン喫茶」（120席）、「学生ホール軽食ラウンジ」（130席）、「本部棟13階カフェテリア」（128席）、「プリンスホール」（159席）、「ニュープリンスホール」（1F 145席・2F 124席）と食堂が多数あり、豊富なメニューを用意し学生のニーズに答えている。営業時間以外に学生に開放されているスペースがあり、学生の友好・交流の場になっている。

また、主要な建物には、ラウンジやテラスがあり、授業の合間に休憩、懇談できるスペースが確保されている。更に、屋外にもベンチやテーブルを適宜配置し、学生がどこでも休憩できるよう配慮している。

学生の課外活動に関しては、111団体に及ぶクラブ・サークルのために、各活動施設（グランド、コート、部室、音楽施設など）を学生の要望に応じて随時整備してきた。最近では硬式野球部の最新設備を完備した室内練習場が完成している。

またキャンパス内外に多数の学生寮がある。滝山寮、友光寮、宝友寮、パイオニアホール、桂冠寮（法科大学院生）、正義寮、創英寮、光球寮（野球部）、白馬寮、サンフラワーホール、白萩寮、陽光寮、朝霧寮、秋桜寮、香峯寮、桜香寮があり、約1,350名の学生が収容できる体制となっている。

これまで、学生からの要望を十分に受け入れ、また他大学の取り組みなども参考にしながら

ら、快適な生活空間の確保に取り組み、施設の運用・管理にも十分な配慮を施してきた。

今後は学生の「学習空間(授業・学習の場)」、「キャンパスライフ空間(食堂や休息場所等)」、「課外活動空間(クラブ施設等)」などをバランスよく整備し、バリアフリー環境にも配慮して全学生がさらに快適に過ごせるようにしていきたい。また安全面では、夜間キャンパスのみならず通学路に外灯の増設を行うなど地域町会の協力を得て、防犯面にも配慮していく。さらに全学をあげてキャンパスマナー等の周知徹底も行っていきたい。

B群：大学周辺の「環境」への配慮の状況

キャンパスの開発・整備にあたっては、「八王子市緑化条例」や「東京都における自然の保護と回復に関する条例」等に則り緑地保全への配慮を常に心がけている。またこれまで大学周辺の地域住民に対して、交通安全、騒音・防犯対策、ゴミ問題等で迷惑をかけないよう方策を講じてきた。

交通安全に関しては、大学が丘陵にあるため地形的な条件や道路状況等により事故の危険性があることから、学生の交通安全意識向上のために講習会、セミナー、学内キャンペーン等を開催し、注意を促してきている。学内に設置された防犯・交通委員会で学生の意見も十分反映しての具体的な方策を検討している。

騒音に関しては、大学行事やクラブ活動等で大音量を出して周辺住民に迷惑をかけないように、2004年4月より「構内環境を静穏に保つためのガイドライン」を設け、音を出すクラブ団体等に一定の規制をかけている。また、建設が予定されている新たな体育館には音楽系クラブの練習室も用意し、周辺環境に様々配慮している。

防犯に関しては、大学周辺には女子学生が多く住んでいることなどから、大学として地元町会や警察署とも連携を密に取りながら防犯講習会など各種対策を実施している。特に、男子職員が夜間周辺パトロールを毎日行い地域の防犯活動に取り組んでいる。また防犯意識の高い男子学生有志による、八王子警察署管轄の「学生防犯パトロール隊」も2004年秋に結成され、地元住民より感謝されていることは注目に値する。

ゴミ問題に関しては、2004年10月からの八王子市ゴミ有料化政策実施にともない、学内でもゴミの分別、捨て方等のセミナーを行政側の担当者を招いて数回開催した。キャンパスでもゴミを分別できるよう、6種類のゴミ分別箱を屋内外各所に設置するなど、ゴミに関する学生の意識向上に積極的に取り組んでいる。

大学では定期的に周辺住民との懇談会等を開催してよりよい環境づくりのため努力をしている。17年間毎年開催している「さつき祭り」は、地域住民の方々が約1,000名参加する恒例行事の一つである。また地域住民に対して構内施設の開放等も積極的に行っている。

地域住民と常に連携をとり協力して諸問題の解決に取り組んでいることは大いに評価できる。周辺地域の迷惑駐車や不法なゴミ捨てを行った場合でも町会、警察、ゴミ清掃事業所など関係機関と本学の学生部や総務部などが連絡をとり、速やかな対応を行う体制となっている。

A群：施設・設備面における障害者への配慮の状況

学生及び障害をもつ学生とキャンパスバリアフリー化を検討するため、学生（障害者を含む）・職員・教員で構成する「バリアフリー対策委員会」を2003年に設置し、積極的に議論

している。この委員会の検討内容を基に、バリアフリー化の各種工事を年次計画により進めている。スロープの設置や自動ドアの設置など施設・設備面の充実を図ると共に、創価大学「バリアフリーマップ」を作成し、学生・教職員のみならず来学する一般市民・障害者の方々にも配布し、安全に施設・設備を利用できるように配慮している。また障害を持つ卒業生や専門家を招いて「バリアフリー講習会」を開催し、意識啓発を行った。

一部ではあるが、2003年度以降改修・改良を終えた工事は以下のとおりである。

【バリアフリー化工事一覧（参考資料）】

◎2003年度

池田記念講堂東側スロープ
教育学部棟東側からニュープリンスホール1F西側出入口付近スロープ
栄光の道沿いスロープ 福利厚生棟B3Fスロープ
ラーニング棟正面玄関風除室自動ドア4箇所設置
教務課オープンカウンター化（車椅子対応カウンター含）工事
福利厚生棟1F身障者トイレ 千花道スロープ化工事
本部棟4F身障者トイレ空調機設置工事 正門周辺・栄光門周辺スロープ化工事

◎2004年度

新朝風寮内ドア・手摺・スロープ化工事
学生ホール2・3F及び工学部F棟1F身障者トイレサインの取り付け
池田記念講堂雨天広場、文系A棟ロータリー等構内各所に車椅子専用駐車場増設
ラーニング棟B1F～S101教室までの屋外階段に手摺の設置
S201教室下側両サイド出入口階段片側に手摺の設置 車椅子の増設（総務部保管）
身障者の要望に応じて教室への「身障者優先席」の確保
滝山テラス自動ドア設置及びスロープ化工事 構内「バリアフリーマップ」の作成

◎2005年度

教育学部棟1Fに身障者用トイレ設置工事
桜花門～桂冠寮駐輪場歩道の横断歩道個所等バリアフリー化工事
文系C棟正面玄関風除室及び自動ドア化工事
教育学部棟正面玄関自動ドア化及びスロープ化工事
構内横断歩道等各所バリアフリー化工事
教育学部棟前及び松風センター脇 各1箇所に身障者駐車場の設置工事
既設身障者用駐車場へのサイン設置工事（正面ロータリー、ニュープリンスホール西側）

◎2006年度に予定している工事は以下のとおりである

中央図書館1F風除室（2箇所）自動ドア設置工事
中央図書館2Fブラウジングルーム（1箇所）自動ドア設置工事
中央図書館2F第2閲覧室（1箇所）引戸改修工事
中央図書館3F第3閲覧室（1箇所）引戸改修工事
工学部E棟1F風除室（1箇所）自動ドア設置工事

文系A棟4教室引戸設置工事
構内横断歩道等各所バリアフリー化工事
文系A棟7F多目的トイレ改修工事

「バリアフリーマップ」は好評を得ており、Web上にも公開している。

また本学には20,000名を超える通教生が在籍しており、夏のスクーリング期間中は延べ10,000名を超える通教生がキャンパスで学ぶ。従って様々な世代、身体状況の人たちの声が寄せられており、多様な対応を行っている。

今後は未整備の建物入り口の自動ドア化及びスロープ化、そして教室や部屋等のドアの改善、更には既設旧型のエレベーターの身障者対応化や身障者（多目的）トイレの要所への増設等、きめ細かな対応が必要である。学生寮については、宝友寮（男子寮）がバリアフリー化され、受け入れ態勢が整っているが、既存の他寮の整備が今後の課題となっている。また、ハートビル法及び東京都福祉のまちづくり条例に則して整備をしていきたい。

（組織・管理体制）

B群：施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況

施設・設備等の維持・管理については、「学校法人創価大学事務分掌規程」に基づき、管理部が中長期計画を策定し、予算計上・運用管理をしている。その内容・進捗状況について、財務部は財政状況を鑑みながら効率的かつ適正に実施されているかどうかをチェックしている。このように管理部と財務部が連携しつつ、さらに理事会管轄の管財委員会と予算委員会で懸案事項を協議して進めている。また管理部には一級建築士資格を持つ職員1名を配置している。

重要な建設計画・改修工事・環境整備については、管理部が管財委員会に諮っている。管財委員会は20名で構成されており、理事長、事務局長、教務関係・管理関係の部課長の代表が出席している。管財委員会での協議の結果を受け、管理部は、案件の金額・内容により、工事申請書あるいは稟議書を回付し承認を受けるようにしている。更に理事会審議事項に相当する案件については、理事会あるいは常任理事会で審議・承認を得ることにしている。

日常的な保守・メンテナンス等の修繕に関わる工事においては、工事申請書を起票し承認を得て工事を実施をしている。また、突発的な事故・故障・災害等により復旧事業が発生し緊急を要する場合には、直接理事長の決裁を得て、工事を実施する場合がある。

長所は、施設・設備の維持管理に関して管理部に情報が集中し、効果的・効率的に運営されることである。

問題点は、管理部には専門的な知識が要求されることから、人材の確保が必要であり、習熟した見識の保持が人事異動に大きく左右される場合がある。また、建物の老朽化に伴い、改修・修繕の箇所が増加傾向にある。

これらの諸課題の克服には、設備維持・管理に習熟した人材を管理部に確保し、管理部と外部委託業者との連携により体制を強化することが必要である。また地球温暖化防止条約に基づく経済産業省や東京都環境局の政策による省エネルギー対策など、広範な知識、コンプライアンスの強化が必要である。

B群：施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況

本学では、施設・設備の管理運営について、2002年3月をもって施設課を廃止し、外部業者と委託契約を締結した。契約内容は、電気設備・空調設備・給排水設備・消防設備・輸送設備・記念講堂管理業務などである。全ての施設・設備の、正常かつ良好な運転状態を保つよう点検、保全作業を行い、また、設備の機能維持を図るため機器の磨耗劣化を予測して修理、取替えを行うよう安全確保に努めている。1ヶ月に1回、定例の打合せを行い、連携を密に管理運営にあたっている。

防災対策については、部長会常設の防災委員会を組織している。八王子消防署の指導を受けるとともに、自衛消防隊を組織し、無事故の保持に努めている。年1回の自衛消防大会には継続して参加しており、防火意識の高揚に努めている。なお、建物火災保険は構内施設を包括した内容で契約をしている。

清掃関係については、清掃会社数社に業務を委託している。定期的な日常清掃を原則に行い、適宜必要に応じてスポット清掃を実施している。廃棄物についても清掃業者数社と委託契約している。

造園については、構内外の樹木等の維持管理として、造園業者と保守契約を締結している。

衛生管理については、各種業者と契約し、トイレの尿石の除去・手洗い液、構内各所の足拭きマット、更に害虫駆除等に努めている。

開学35年を迎え、施設・設備の老朽化が進み、突然の故障発生などが年々増加している。施設・設備の衛生・安全のため、限られた予算の中で、満足度とサービスの向上を確保できるかが課題といえる。今後は、ファシリティーマネジメントも視野に入れ、更なる安全・衛生の確保に全力をつくしていきたい。また、社会における取組事例を多く習得すると共に、効率的なシステムを検討していきたい。

施設・設備の衛生・安全の確保について、とくに実験、実習を行う工学部では独自の規程や制度を設け対応しているので、その詳細については工学部534頁を参照願いたい。

【大学院】

目標：学部と違い深夜まで研究・実験を行う大学院生が多いことから、校舎の安全管理と危機管理の体制整備や責任体制の確立を目指す。

A群：大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設設備等諸条件の整備状況の適切性

文系3研究科は、少人数の科目が多く、ほとんどが教員研究室やゼミ室を使用している。文学研究科教育学専攻臨床心理学専修は、学内に開設している「臨床心理相談室」内に設置しているセミナールームを授業で活用している。

工学研究科では、2003年度に環境共生工学科の増設があり、投影用プロジェクターの設置など教室設備の改善を行った。さらに、工学部G棟として2階建ての実験棟も建設した。

B群：大学院専用の施設・設備の整備状況

文系3研究科の在籍者のための学習・研究施設として「創大時習館」を1996年3月に建設した（延床面積約1,157㎡、鉄筋コンクリート3階建）。使用時間は、月曜日～日曜日、8：

00～24:00 となっており、24:00 には退出することになっているが（申請をすれば延長可）、これは、夜間の事故を防止するためである。なお、17:00 以降は、防犯上出入口が自動的に閉まり、エンコードのデータが入った大学院生の学生証を機械に通さないと、入室ができないようになっている。1階に6部屋、2階に9部屋、パソコンルーム（10台設置）があり、大学院生が自由に使用できる。3階に8部屋の自習室を設け、各部屋には8つの机を設置し、合計で部屋数：23部屋、机数：184台の設備となっている。この机は、在籍者1名に対し1台の個人用の机を提供しており、休学中であっても在籍期間中は使用できる。机には情報コンセントがあり、学内LANが繋がっていて、個人のパソコンを繋げて使用できるようになっている。また、車椅子の利用にも配慮し、1階の自習室は、バリアフリー対応である。

上記自習室以外にも、大学院生で打ち合わせなどができるよう1F・3Fにはラウンジがある。工学研究科では、大学院生のための自習室を12部屋用意している。

また工学研究科男子学生用として、パイオニアホール（48室）の寮がある。また女子学生用として、14室の民間アパート借上げ寮がある。工学研究科の施設については、自習室、寮の各部屋ともLANが整備されており、研究・学習に支障がない。今後夜間残留体制への対応を検討したい。

創大時習館については24時間使用を検討し、工学研究科については、実験環境をより整備していきたい。また、空調が一括管理のため、冷暖房の切り替え時期に研究がしづらい場合があるので、今後検討していきたい。

（維持・管理体制）

A群：施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況

B群：実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立

大学院の施設・設備等の維持・管理については、原則学部と同様の体制になっている。ただし、大学院に関する問題は、大学院委員会・各研究科委員会の審議事項である。

工学部及び工学研究科で使用している特殊機器、設備、薬品等の管理及びその処分については、毒物劇物管理委員会、廃棄物適性処理委員会、放射線障害予防委員会、実験動物委員会、動物舎委員会、組換えDNA実験・微生物安全管理委員会を設置し、学内の規程・内規及び国の関係法規に則り管理運営されている。

実験室から出るゴミは全て産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）として分別させ、回収して専門の廃棄物処理業者に処分を委託している。同様に実験室からの実験廃液等は「創価大学工学部廃棄物適性処理規程」に基づいて適性に管理されている。

現状の体制による管理運営が継続されるよう、教職員が連携を取り合って学生への指導の充実を図っていく。なお、衛生管理者の資格を有する職員を増やしたい。

（2）情報インフラ

B群：学術資料の記録・保管のための配慮の適切性

本学大学院における教育・研究のプレプリント、グレーリタラチャーは、現状のところ未だほとんどのものが紙媒体の形を取っている。また、先端的研究は進展しているものの、その手法、研究プロセスは、各研究室内に物理的に、又は、個人的データファイル形式で管理

されている。

今後の望ましい施策としては、大学全体として研究用の共有サーバを立て、研究用データベースを開発、または既存のものを導入し、ルールやガイドラインを策定し、構築を図るとともに、研究成果のアーカイブ化を図ることにより、大学の研究基盤の共有財産を目指し、更に社会への情報発信機能を視野に入れいきたい。

B群：国内外の他の大学院、大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件設備とその利用関係の適切性

図書館間相互協力については、NACSIS-I LLに参加し、他大学への図書借用、文献複写、訪問利用については、利用者の申請→図書館の受付→他館への依頼→他館からの受取り→利用者への提供の流れをオンラインで行える。また、海外I LLもOCLC、BLDS C、GIFを介して調達することが可能である。オンライン化により利用者の依頼件数が著しく増加した。立ち遅れていた国立情報学研究所への所蔵提出も、2004年度から取り組み始め2005年度内に一応の所蔵提出のめどが立った。また、利用方法等の案内のための種々ガイダンスの開催やカラーリーフレットを作成するなど広報にも力をいれている。

学術情報の提供システムでもっとも利用ニーズが高いのは資料調達機能であり、I LL申請のオンライン化は一応の成果を挙げることができた。ただし、WebOPACやオンライン図書購入依頼システム、電子ブック、オンラインジャーナル・インターネットリソースへの参照・データベースのリンケージなどを視野に入れた、統合的な資料調達機能・サービスは不十分である。

今後あらゆる利用者の目的に適応したパンフレットの作成を、附属図書館の中央館・分館である工学部図書館で共同して作成することにより、更なる利用改善を図りたい。また、学内の他の施設や各研究室に偏在する学術資料の組織化と、学内で作成される教材等のデータベース化、これらの図書館検索システム対応や機関レポジトリの取り組みを開始していきたい。

